

千代田区公園づくり基本方針(案)

～千代田の歴史を継承し 次世代を育む 居心地よいコモンスペースを目指して～

令和6年3月

はじめに

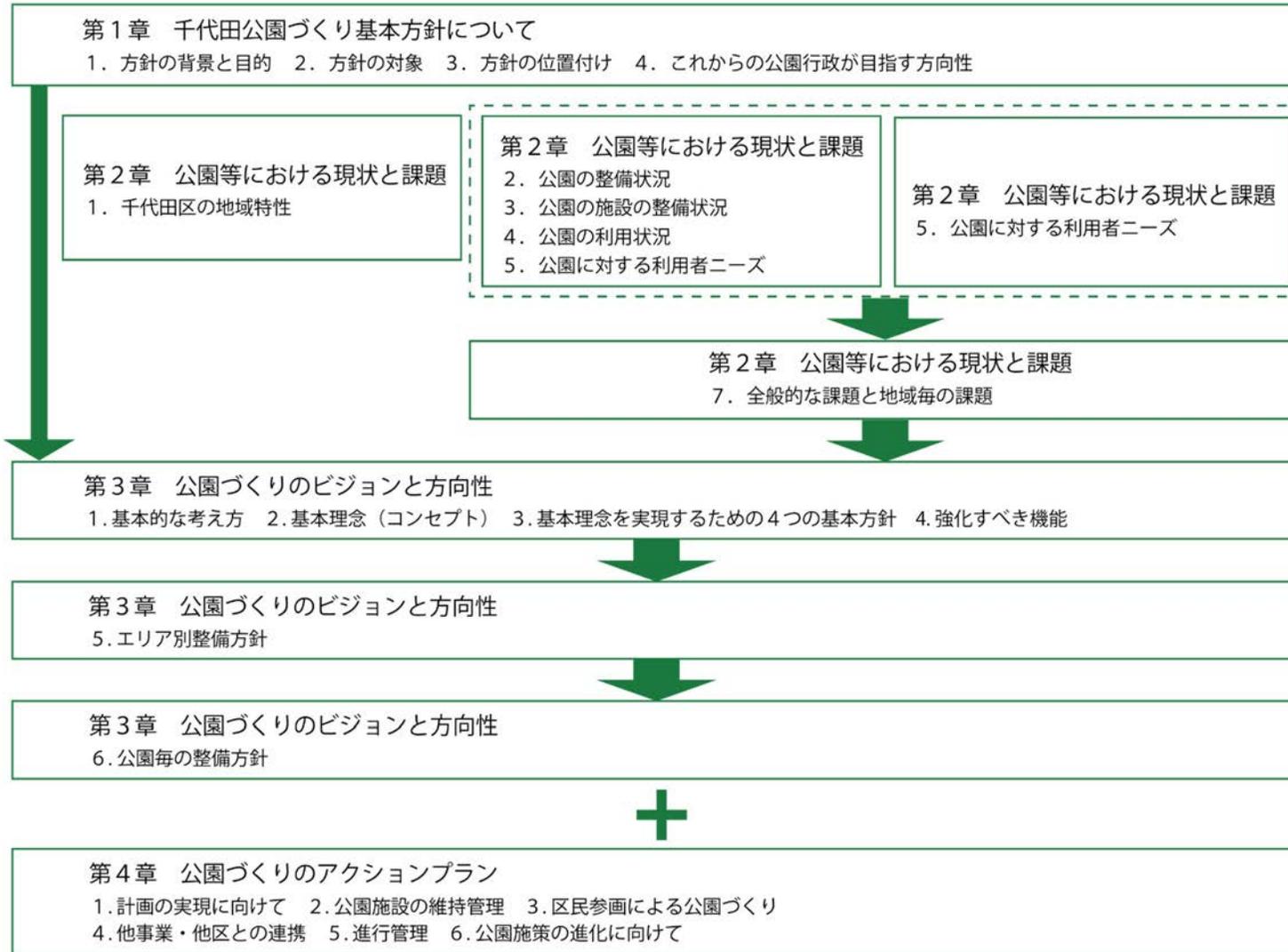
区長コメント

令和6年〇〇月
千代田区長 樋口高顕

目次

第1章 千代田区公園づくり基本方針について	2
1. 方針の背景と目的	2
2. 方針の対象	2
3. 方針の位置付け	3
4. これからの公園行政が目指す方向性	3
第2章 公園等における現状と課題	5
1. 千代田区の地域特性	5
2. 公園の整備状況	10
3. 公園の施設の整備状況	12
4. 公園の利用状況	14
5. 公園に対する利用者ニーズ	16
6. 全般的な課題と地域毎の課題	24
第3章 公園づくりのビジョンと方向性	34
1. 基本的な考え方	34
2. 基本理念（コンセプト）	34
3. 基本理念を実現するための4つの基本方針	36
4. 強化すべき機能	40
5. エリア毎整備方針	44
6. 公園毎の整備方針	54
第4章 公園づくりのアクションプラン	77
1. 計画の実現に向けて	77
2. 公園施設の維持管理	79
3. 区民参画による公園づくり	80
4. 他事業・他区との連携	81
5. 進行管理	82
6. 公園施策の進化に向けて	83

章の構成



第1章 千代田公園づくり基本方針について

第1章 千代田区公園づくり基本方針について

1. 方針の背景と目的

千代田区では、平成19（2007）年5月に千代田区公園・児童遊園等整備方針を策定しました。本方針により公園整備を進め、現在58箇所の公園・児童遊園・広場が整備されており、一定の役割を果たしてきたところです。一方で、整備方針策定後16年余が経過し、区民の人口増加や様々な都市開発、また新型コロナウイルス感染症の蔓延等の影響により、都市生活の中での公園の重要性が顕在化するなど、公園を取り巻く環境は大きく変化しています。また、都市緑地法や都市公園法などの関連法令が改定され、都市公園はより一層柔軟な利用や民間との連携推進等の施策展開が求められています。こうした背景から、区内の公園・児童遊園・広場の魅力を最大限引き出した公園づくりを推進するため、施設の再整備等による機能の見直しを図りながら、本基本方針を改定します。

本計画は概ね2040年を展望する長期的な計画です。しかし、社会・経済状況の急激な変化、人々のニーズの多様化、緑とオープンスペース等に関わる新たな制度の創設などにも機動的に対応する必要があります。そのため、定期的に取り組状況を把握しながら、見直しを検討する必要があります。

2. 方針の対象

本基本方針では、千代田区が管理する58箇所の公園・児童遊園・広場を対象とします。（以下、千代田区管理の58箇所の公園・児童遊園・広場を「公園」という。）

東京都が管理する日比谷公園や環境省が管理する北の丸公園、皇居外苑、千鳥ヶ淵戦没者墓苑、衆議院が管理する国会前庭、宮内庁が管理する皇居東御苑は対象外とします。

表 千代田区内の公園・児童遊園・広場の数と面積

種別	箇所数	面積 (㎡)
区立都市公園	22	105,542
区立児童遊園	22	5,838
区立広場	14	9,199
合計	58	120,579

表 対象外の公園

公園名	所管	面積 (㎡)
日比谷公園	東京都	161,636
北の丸公園	環境省	193,298
皇居外苑	環境省	965,048 (濠部分 12濠 366,548)
千鳥ヶ淵戦没者墓苑	環境省	16,063
国会前庭	衆議院	50,000
皇居東御苑	宮内庁	210,000
合計		1,588,256

3. 方針の位置付け

本方針は、都市公園を含む千代田区の公園等の整備・管理に関する考え方を示すものです。都市緑地法では、都市公園の整備及び管理の方針を緑の基本計画に定めることとされています。そのため千代田区では、令和5年3月に策定した「千代田区第4次基本構想」、同年月に策定した「千代田区都市計画マスタープラン」を上位計画とし、令和3年7月に策定した「千代田区緑の基本計画」を策定しています。そのため、本方針は都市緑地法に基づく都市公園の管理方針として、千代田区みどりの基本計画の一部として位置付けます。

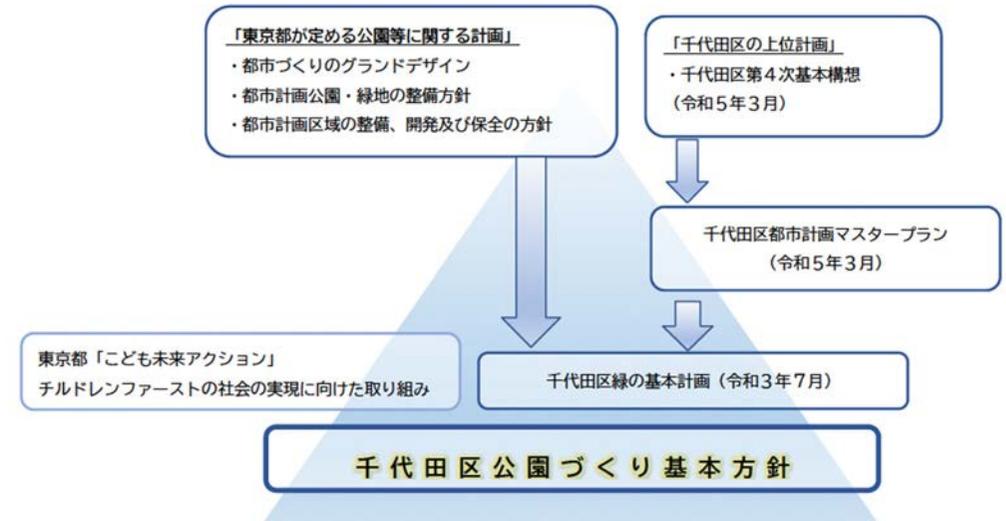


図 本方針と上位関連計画との関係

4. これからの公園行政が目指す方向性

2017年に都市公園法が改正され、公園管理者と地域の関係者等が、密に情報交換を行い、協議しながら当該の公園の活性化方策や利用のルール等について取り決め、実行していく公園の活性化に関する協議会の設置や公園に民間の優良な投資を誘導することで公園管理とする「公園設置管理制度（Park-PFI）の創設」、「PFI事業の設置管理許可期間の延伸」など新たに公園を活用した事業展開の可能性が生まれており、住民参加の拡大や民間活力の導入など近年の公園を取り巻く社会状況は大きく変化しています。

本基本方針を策定することにより、千代田区で暮らす人、働く人、訪れる人、事業を始めたい人など千代田区に関わる多様な人と協働し、これまでの行政主体の整備から、官・民が一体となって公園をより魅力的な場所に創り育てていくことを目指します。

第2章 公園等における現状と課題

第2章 公園等における現状と課題

1. 千代田区の地域特性

(1)人口

千代田区は23区の中で最も人口が少ない区ですが、現行の整備方針が策定された平成19年度の人口は44,954人であったのに対し、令和5年度時点では67,049人に達しており、約1.5倍の増加となっています。地域別では、麴町・番町地域が最も人口が多く、20,709人となっており、次いで飯田橋・富士見地域、和泉橋地域の順となっています。

年齢3区分別人口では、15～64歳の生産年齢人口が最も高い割合となっており、各地域ともに概ね65%～75%の割合となっています。また平成30年度と令和5年度の町丁目別年少人口率を見ると、全体的に増加傾向にあると言えます。

千代田区で特徴的な要素は、昼間人口の多さで、令和2年度国勢調査の結果では、昼間人口は116万9千人※にのぼります。区民だけでなく、区外からの来街者の公園利用についても留意する必要があります。

※昼間人口の数値は、国が公表した不詳補完値による。

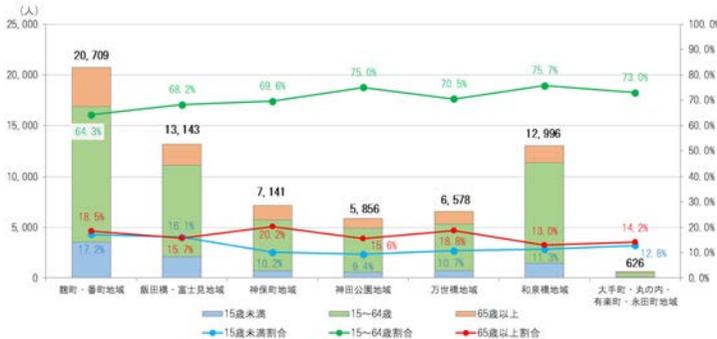


図 地域別の人口と年齢別の割合

(出典：千代田区行政基礎資料集 (令和4年度版))

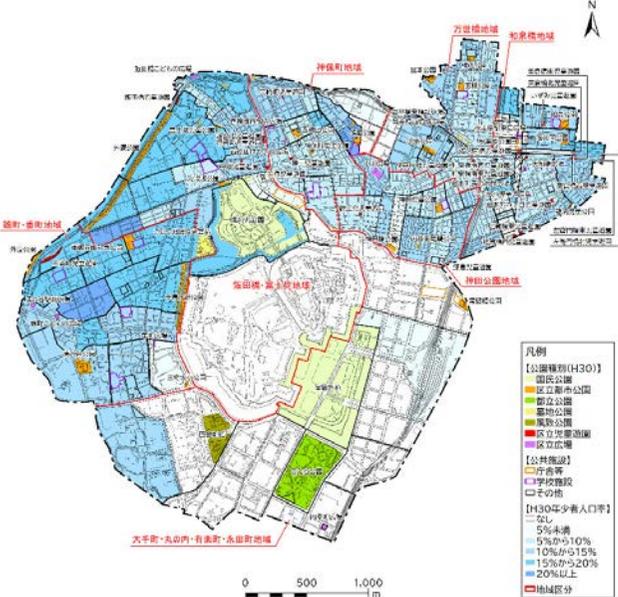


図 平成30年度町丁目別年少人口率

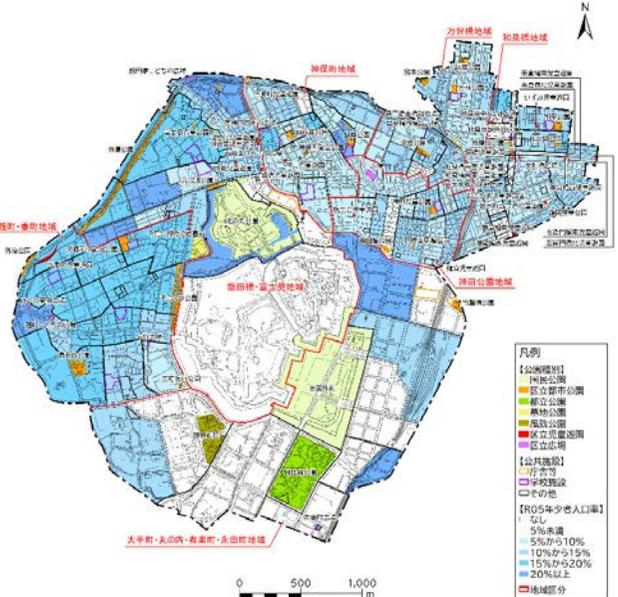


図 令和5年度町丁目別年少人口率

(出典：住民基本台帳)

(2)自然特性

武蔵野台地の東端に構えた江戸城を中心に、日比谷入江の埋立てや外濠の整備が進められ、大名・旗本屋敷・町地などが発展して完成した江戸城の総構が、現在の千代田区のまちの骨格となっています。江戸城の南・西・北に広がる山の手では武家屋敷が置かれ、地形を巧みに活かした大名庭園等が築られました。現在、江戸城は皇居に受け継がれ、濠の水と緑に包まれています。いくつかの大名庭園等は現在も都立公園等としてその姿をとどめています。

千代田区の緑被地は約270ha、緑被率は23.22%となっており、皇居や北の丸地区を中心とした区内最大の緑地が中央に位置しています。また、その他にも外濠、靖国神社、国会議事堂前庭等にまとまった緑が分布しています。区内西部の麴町・番町地域や飯田橋・富士見地域では緑が点在していますが、区内東部は緑被率が低く、いずれも地域も10%未満の状況となっています。



図 緑被区分図

(出典：令和3年7月千代田区緑の基本計画)

(3)土地利用

区内の土地利用は、中心部にある広大な面積を占める皇居があり永田町及び霞が関には官公庁施設などの公共用地、日比谷から東側の大手町にかけては、街区の大きな商業用地となっています。麴町・番町地域、飯田橋・富士見地域においては、住宅用地が多く見られます。

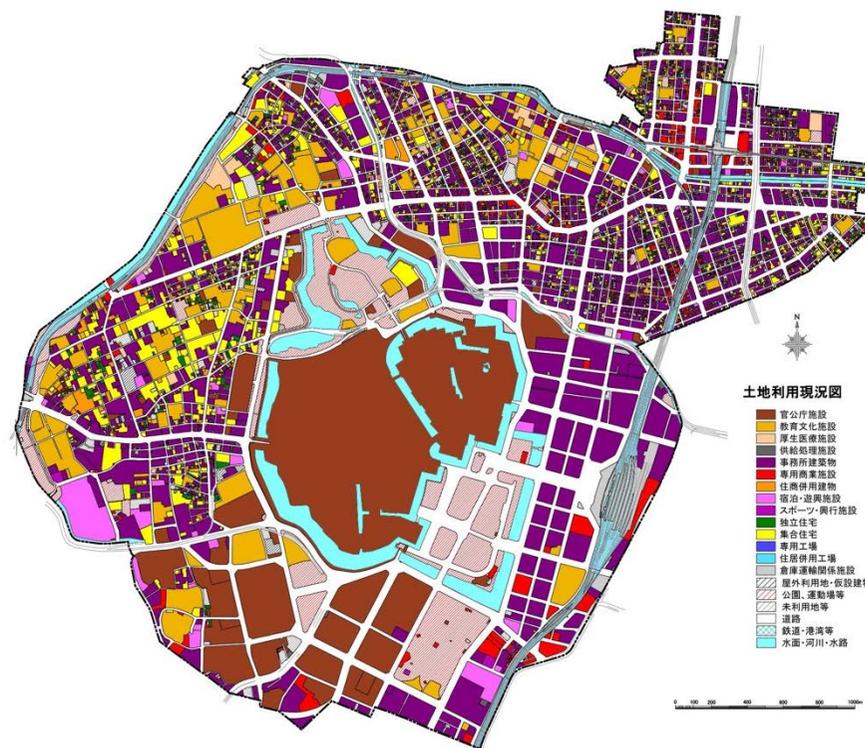


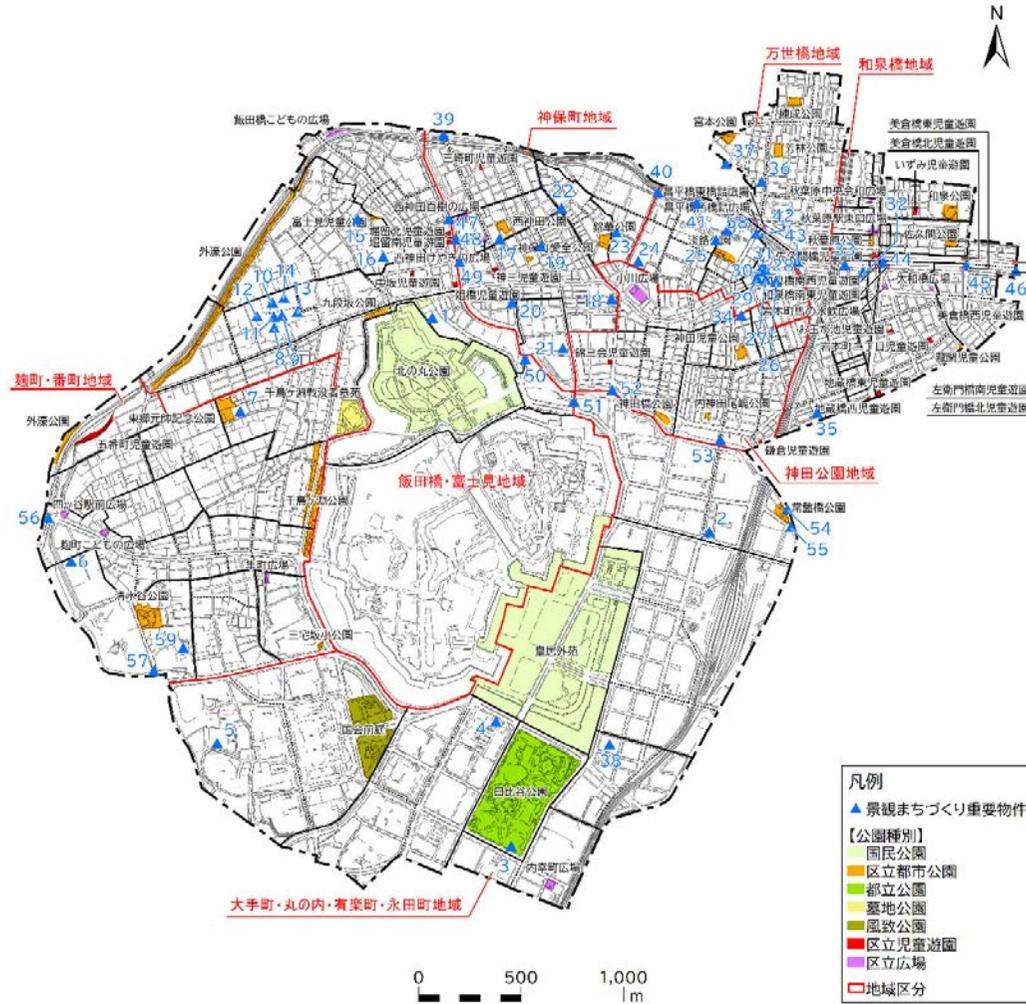
図 土地利用現況図

(出典：令和3年度東京都都市計画調査データ)

(4) 景観

景観まちづくり重要物件の分布・一覧

千代田区では、景観まちづくり上重要な建造物等を千代田区景観まちづくり条例に基づき、「千代田区景観まちづくり重要物件」に指定しています。令和5年5月現在、建築物等34件40棟、橋梁17件19橋を指定しています。



番号	物件の表示	指定年月日	番号	物件の表示	指定年月日
1	九段会館本館	平成15年6月9日	31	竹むら	平成15年6月9日
2	大手町野村ビル	平成15年6月9日	32	海老原商店	平成15年6月9日
3	日比谷公会堂・市政会館	平成15年6月9日	33	柳森神社	平成15年6月9日
4	法書会館	平成15年6月9日	34	志村印刷	平成15年6月9日
5	日比谷高校資料館・正門・塀	平成15年6月9日	35	山梨中央銀行東京支店	平成15年6月9日
6	上智大学1号館	平成15年6月9日	36	明神下神田川本店	平成15年6月9日
7	区立九段小学校	平成15年6月9日	37	天野屋(あま酒)	平成15年6月9日
8	靖国神社本殿	平成15年6月9日	38	旧第一生命館(DNタワー21)	平成15年8月8日
9	靖国神社拝殿	平成15年6月9日	39	後楽橋	平成19年3月28日
10	靖国会館	平成15年6月9日	40	お茶の水橋	平成19年3月28日
11	到着殿	平成15年6月9日	41	聖橋	平成19年3月28日
12	靖泉亭	平成15年6月9日	42	昌平橋	平成19年3月28日
13	能楽堂・舞台	平成15年6月9日	43	万世橋	平成19年3月28日
14	遊就館	平成15年6月9日	44	和泉橋	平成19年3月28日
15	東京ルーテルセンタービル	平成15年6月9日	45	美倉橋	平成19年3月28日
16	晩星学園寮	平成15年6月9日	46	左衛門橋	平成19年3月28日
17	東方学会本館	平成15年6月9日	47	新川橋	平成19年3月28日
18	文房堂ビル	平成15年6月9日	48	堀留橋	平成19年3月28日
19	誠心堂書店	平成15年6月9日	49	南堀留橋	平成19年3月28日
20	今荘	平成15年6月9日	50	雉子橋	平成19年3月28日
21	共立講堂	平成15年6月9日	51	一ツ橋	平成19年3月28日
22	猿楽町会館	平成15年6月9日	52	錦橋	平成19年3月28日
23	山のホテル本館	平成15年6月9日	53	鎌倉橋	平成19年3月28日
24	お茶の水スクエアA館	平成15年6月9日	54	日常盤橋	平成19年3月28日
25	高島宅	平成15年6月9日	55	常盤橋	平成19年3月28日
26	鷹岡株式会社	平成15年6月9日	56	四谷見附橋	平成19年3月28日
27	山本歯科医院	令和4年4月28日	57	弁慶橋	平成19年3月28日
28	あんこう 錦いせ源本館	平成15年6月9日	58	ギャラリー一蔵(御茶ノ水ソラシティ)	令和5年3月30日
29	神田まつや	平成15年6月9日	59	旧李王家東京邸(赤坂プリンスクラシックハウス)	令和5年3月30日
30	ぼたん	平成15年6月9日			

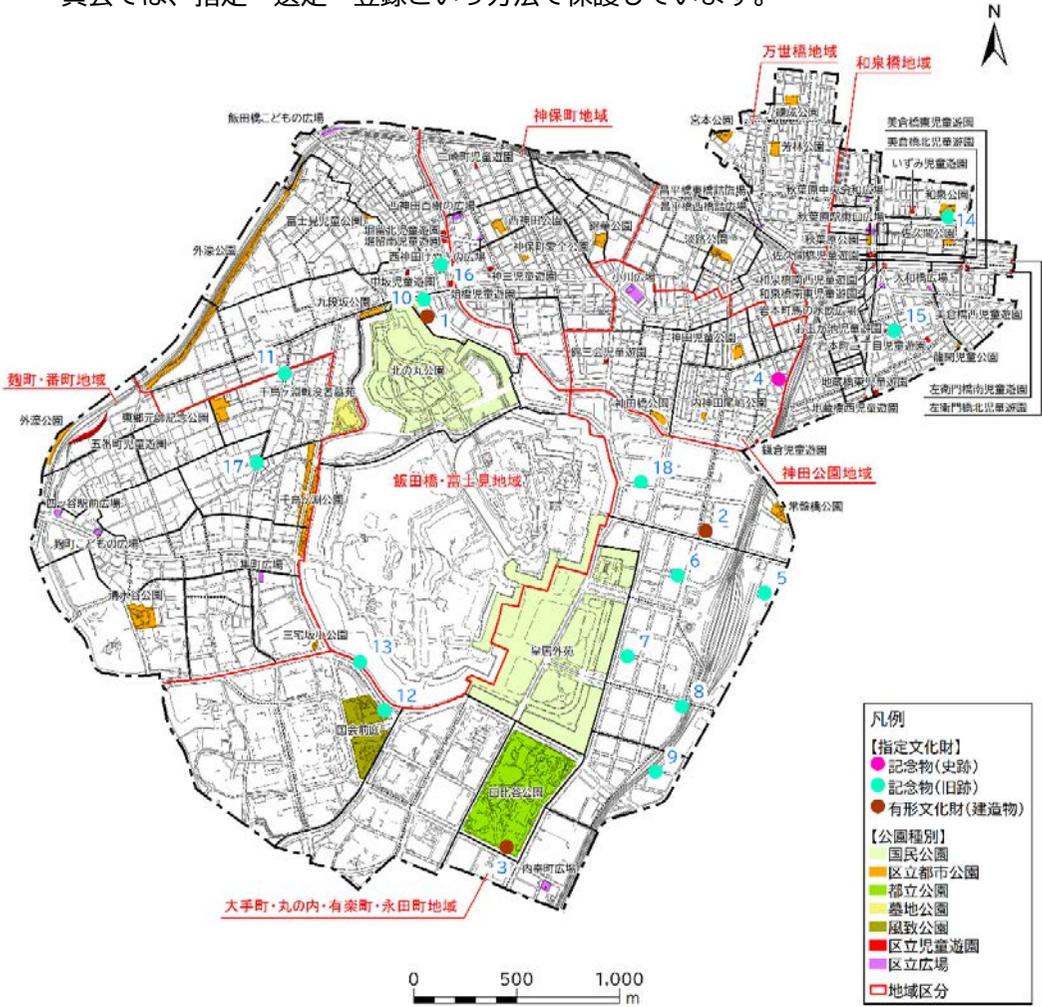
図 景観まちづくり重要物件の分布

(出典：千代田区 HP)

(5) 歴史文化資源

指定文化財の分布・一覧

千代田区内には様々な文化財があります。その中でも、特に重要だと考える物件について、国（文化庁）・東京都教育委員会・千代田区教育委員会では、指定・選定・登録という方法で保護しています。



番号	件名	種類	指定年月日
1	九段会館本館	有形文化財（建造物）	平成2年3月22日
2	大手町野村ビル	有形文化財（建造物）	平成23年6月9日
3	日比谷公会堂・市政会館	有形文化財（建造物）	令和5年3月16日
4	神田下水	記念物（史跡）	平成6年3月22日
5	北町奉行所跡	記念物（旧跡）	昭和30年3月28日
6	評定所及び伝奏屋敷跡	記念物（旧跡）	昭和30年3月28日
7	林大学頭邸跡	記念物（旧跡）	昭和30年3月28日
8	東京府庁舎跡	記念物（旧跡）	昭和30年3月28日
9	南町奉行所跡	記念物（旧跡）	昭和30年3月28日
10	蕃書調所跡	記念物（旧跡）	昭和30年3月28日
11	塙検校和学講談所跡	記念物（旧跡）	昭和30年3月28日
12	加藤清正邸跡	記念物（旧跡）	昭和30年3月28日
13	柳の井・桜の井	記念物（旧跡）	昭和30年3月28日
14	関東大震災協力防火の地	記念物（旧跡）	昭和30年3月28日
15	お玉ヶ池	記念物（旧跡）	昭和30年3月28日
16	滝沢馬琴宅跡の井戸	記念物（旧跡）	昭和30年3月28日
17	滝廉太郎宅跡	記念物（旧跡）	昭和30年3月28日
18	将門塚	記念物（旧跡）	昭和46年3月26日

図 指定文化財の分布

（出典：千代田区行政基礎資料集（令和5年版））

2. 公園の整備状況

(1) 公園の面積と配置

本基本方針で対象とするのは公園、児童遊園、広場の3種類ですが、そのうち、公園は22箇所が整備されています。このうち9箇所は、0.25ha以上の面積の公園で都市公園全体の4割となっております。残りの都市公園の13箇所は、面積0.25ha以下の公園となっています。

児童遊園は22箇所が整備されており、五番町児童遊園を除いて全ては500㎡未満の小さい面積となっています。また、飯田橋児童遊園は令和5年度に飯田橋駅改良工事に伴い廃止され、外濠公園の一部に編入されています。

広場は全部で14ヶ所となっており、そのうちの8ヶ所は500㎡未満、内幸町広場と小川広場を除いて多くは500㎡前後の面積となっています。

基準面積が0.25haとなっている街区公園以下の大きさの公園等は49/58と全体の84%、500㎡未満の小さな公園は33/58と全体の約57%を占めており、千代田区内の公園は一部を除いて小さい面積となっていることが特徴として挙げられます。

表 公園の面積

種別	箇所数	面積 (㎡)
500㎡未満	32	6,459.5
500～1000㎡	7	4,949.7
1000～2500㎡	9	16,777.4
2500～5000㎡	6	19,454.7
5000㎡以上	4	72,461.1
合計	58	120,102.4

(2) 一人当たりの公園面積

昼間人口、夜間人口（常住人口）ともに、増加傾向にあります。区内の特徴として、令和2年時点で夜間人口約7万人に対し、通勤や通学で区内を訪れる人々（昼間人口）は約116万人となっており、他区と比較して昼間人口・夜間人口の差が最も大きいです。

千代田区には国民公園である皇居外苑や北の丸地区を含め、都市公園と都市公園以外の公園を含めた区内の都市公園等面積は区民一人に対し、25.5㎡となり他の特別区と比べ、緑豊かな区となっています。ただし、区民一人当たりの公園敷地面積は人口増加に伴い、減少傾向にあり、令和4年時点では4.19㎡/人となっています。

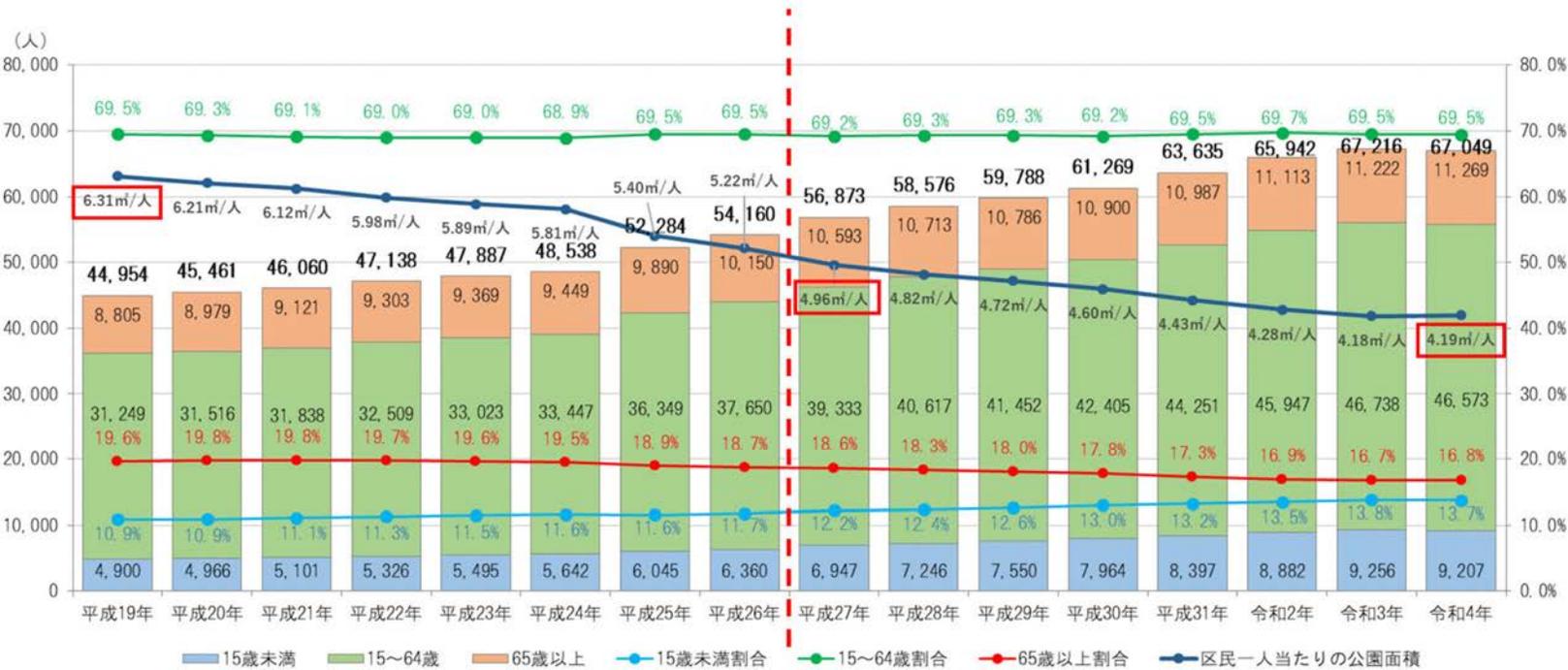


図 千代田区人口及び区民一人当たりの公園敷地面積 ※広場含む
 (出典：住民基本台帳登録人口(令和4年1月1日時点))

3. 公園の施設の整備状況

(1) 修景施設・休憩施設

修景施設は面積の大きい公園を中心に整備されており、一部 500 m²未満の小規模な公園にも設置されています。休憩施設についてはベンチ・スツール等の整備は進んでおり、8割近い公園に整備されているが、500 m²未満の公園では整備されている割合が低くなっています。

表 修景施設及び休憩施設のある公園数

公園面積 (m ²)	公園数	修景施設				休憩施設		
		水景施設	石碑	パー藤 ゴ棚 ラ・ 等	彫刻	ス ツ ー ル 等	ベン チ ・ 野 外 卓	四 阿
500未満	32	2	4	0	0	23	1	0
500～1,000未満	7	0	1	0	1	3	0	0
1,000～2,500未満	9	3	3	0	0	8	0	1
2,500～5,000未満	6	2	4	2	0	6	0	0
5,000以上	4	2	4	1	1	4	1	0
合計	58	9	16	3	2	44	2	1

(2) 遊戯施設・運動施設

遊戯施設や運動施設は公園面積が大きいほど整備が進んでいるが整備率は3割程度にとどまっています。また、運動施設は整備面積が大きいため、2,500 m²未満の面積の公園では整備が進んでいない状況にあります。

表 遊戯施設及び運動施設のある公園

公園面積 (m ²)	公園数	遊戯施設		運動施設			
		子 ど も 遊 具 向 き の	健 康 遊 具	コ テ ー ニ ス	野 球 場	フ サ コ ツ ト サ ル ・ カ サ ル ・	バ ス ケ ッ ト
500未満	32	5	1	0	0	0	0
500～1,000未満	7	2	0	0	0	0	0
1,000～2,500未満	9	5	1	0	0	0	0
2,500～5,000未満	6	3	1	0	0	1	0
5,000以上	4	3	2	1	1	0	0
合計	58	18	5	1	1	1	0

(3) 便益施設・防災施設

便益施設は面積の大きい公園を中心に整備が進んでいるものの、整備率は5割に達していません。防災施設は一部の公園で整備されている状況です。

(4) 遊具・施設の劣化

公園遊具等保守点検の結果、一部の公園の遊具、施設において劣化が見られました。遊具については令和5年時点で58公園中12公園、施設については同年58公園中20公園において劣化が見つっています。

※遊具、施設に対する健全度判定は「健全度判定における評価基準」に基づき決定されています。
 ※点検結果は令和5年8月のものです。緊急性の劣化は補修や更新を行っています。

表 遊具の劣化が確認された公園数

	C,D判定の遊具がある公園数	公園数	割合
R3点検時	17	59	29%
R5点検時	12	58	21%

表 施設の劣化が確認された公園数

	C,D判定の施設がある公園数	公園数	割合
R3点検時	32	59	54%
R5点検時	20	58	34%

表 便益施設及び防災施設のある公園

公園面積 (㎡)	公園数	便益施設		防災施設		
		水飲み	トイレ	防火水槽	貯水槽	ポンプ・井戸
500未満	32	7	6	1	0	0
500~1,000未満	7	2	2	1	0	0
1,000~2,500未満	9	6	7	1	2	2
2,500~5,000未満	6	4	5	2	0	0
5,000以上	4	3	4	1	1	1
合計	58	22	24	6	3	3

表 健全度判定における評価基準

ランク	評価基準
A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に健全である。 緊急の補修の必要はないため、日常の維持保全で管理するもの。
B	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に健全だが、部分的に劣化が進行している。 緊急の補修の必要性はないが、維持保全での管理の中で、劣化部分について定期的な観察が必要なもの。
C	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に劣化が進行している。 現時点では重大な事故につながらないが、利用し続けるためには部分的な補修、もしくは更新が必要なもの。
D	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に顕著な劣化である。 重大な事故につながる恐れがあり、公園施設の利用禁止あるいは、緊急な補修、もしくは更新が必要とされるもの。

出典：公園施設長寿命化計画策定指針（案）【改定版】H30.10

4. 公園の利用状況

以下に千代田区内の公園等のできることをまとめたマップを示します。



図 できることマップ

5. 公園に対する利用者ニーズ

千代田区では令和4年度に58の全公園・児童遊園・広場を対象に①目視によるカウント調査、②公園利用者へのヒアリング調査、③アンケート調査を行なっています。また、令和5年度に④街頭インタビュー調査、⑤Webアンケート調査を行っています。以下にその概要を示します。

① アンケート調査

- ・調査対象：区民、区内全域の小学校児童と保護者及び中学校生徒、区内全域の幼稚園・保育施設の保護者、各施設の職員等
- ・調査方法：郵送によるアンケート調査票配布及びQRコードによるWEBアンケート調査
- ・調査期間：令和4年10月17日（月）～12月16日（金）まで（WEBアンケート調査は、12月28日（水）まで）
- ・配布総数：21,324、うち回答数7,575（回収率35.5%）

② ヒアリング調査

- ・調査箇所：公園22ヶ所、児童遊園19ヶ所、広場10ヶ所
- ・調査方法：調査員数名を配置し、利用状況等について聞き取り調査
- ・調査期間：令和4年11月18日（月）～28日（月）の平日・休日の2日間で実施
- ・調査時間：午前9時～午後6時（9時間）
- ・調査実施により平日1,082人、休日1,261人、合計2,343人のサンプル数を得た。

③ カウント調査

- ・調査対象：公園22ヶ所、児童遊園22ヶ所、広場13ヶ所
- ・調査方法：出口付近に調査員を配置し、目視により利用者をカウント
- ・調査期間：令和4年10月3日（月）～17日（月）の平日・休日の2日間で実施
- ・調査時間：午前9時～午後6時（9時間）
- ・調査内容：利用者数、利用者の性別及び年齢層、主な利用目的を記録
- ・調査実施により平日118,236人、休日108,675人、合計226,911人のサンプル数を得た。

④街頭インタビュー調査

調査実施場所：秋葉原東口広場

調査日時：6月18日（日）、6月21日（水）、6月24日（土）

7：00～19：00

調査内容：公園の利用頻度、公園を利用しない理由、どのような整備が必要か 等

調査手法：公園内にて待ち合わせなどで滞在している利用者に対し調査員がお声がけし、ご協力いただける場合はヒアリングを実施

回答数：611件

有効回答数：608件（16歳未満の回答は3件と少なく分析が難しいため対象外）

⑤Webアンケート調査

調査実施場所：Webからの回答

調査期間：8月5日（土）～9月30日（土）

調査内容：公園の利用頻度、公園を利用しない理由、どのような整備が必要か 等

調査手法：千代田区HP、千代田区公式LINEにてWebアンケート調査の実施を周知し、パソコン、スマホから回答いただいた

回答数：520件

有効回答数：502件（16歳未満及び16～19歳、80歳以上の回答は少なく分析が難しいため対象外とした。）

(2) ヒアリング調査結果

ヒアリング結果の単純集計を以下に示します。利用目的の理由の高い順に休憩が41.1%、こどもと遊ぶための21.5%、散歩（ペットと散歩）が16.1%となっており、休息や遊びが利用として高くなっています。

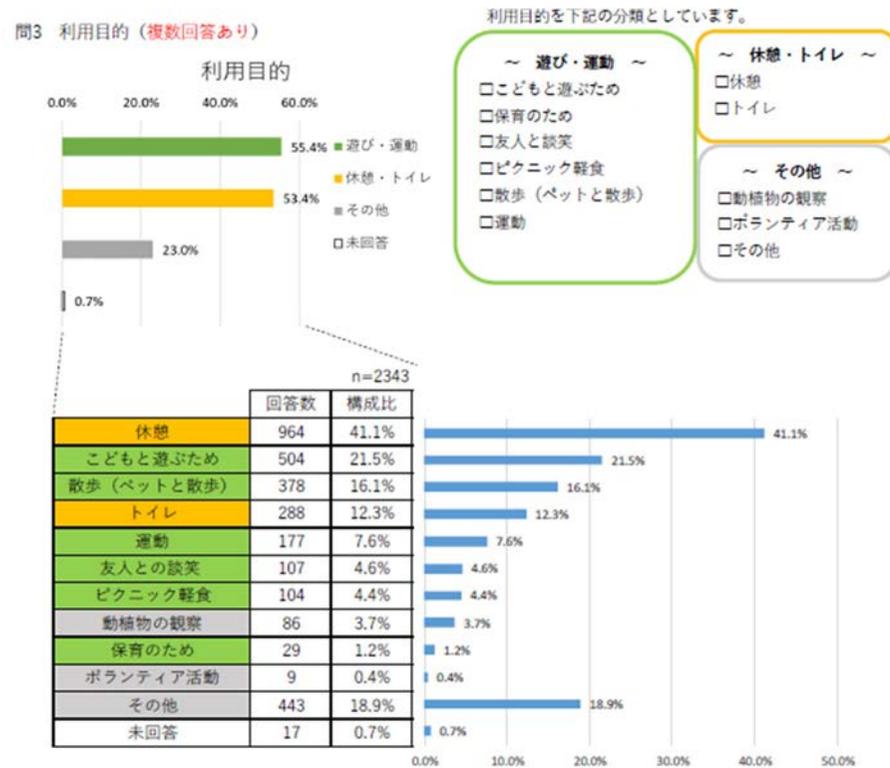


図 ヒアリング調査結果概要

以下にクロス集計の概要を示します。

- ・ 全体的に遊具やかけっこでの利用が高い
- ・ 動植物の観察、ボール遊びは麴町・番町地域、飯田橋・富士見地域で傾向が高い
- ・ 遊具は飯田橋・富士見地域で傾向が高い
- ・ 遊びや学びの希望について地域での差は見られない
- ・ 東郷公園、西神田公園、神田児童公園、龍閑児童公園でのボール遊びの希望が高い
- ・ 東郷公園、西神田公園、神田児童公園、和泉公園での水や自然の遊び、

※千代田区都市マスタープランで位置づけられている7つの地域区分



図 どんな遊びをしているか×地域 (※公園所在地)

(3) アンケート調査結果

以下にアンケート調査結果の概要を示します。アンケートについては大人を対象としたもの、子どもを対象としたもの、それらのクロス集計を行いました。

表 大人アンケート属性 n=4,239

	基数				構成比
	区民	保護者	職員	合計	
10～30歳代	258	1,105	264	1,627	38.4%
40～50歳代	369	1,704	175	2,248	53.0%
60～70歳代	182	27	50	259	6.1%
80歳以上	48	2	0	50	1.2%
未回答	44	10	1	55	1.3%
合計	901	2,848	490	4,239	100.0%

※職員を除く基数 (n=3,749)

表 子どもアンケート属性 n=3,336

	基数	構成比
小学校1年生	291	8.7%
小学校2年生	314	9.4%
小学校3年生	264	7.9%
小学校4年生	241	7.2%
小学校5年生	248	7.4%
小学校6年生	197	5.9%
中学校1学年	718	21.5%
中学校2学年	520	15.6%
中学校3学年	533	16.0%
未回答	10	0.3%
合計	3,336	100.0%

以下に千代田区内の教育機関位置図を示します。

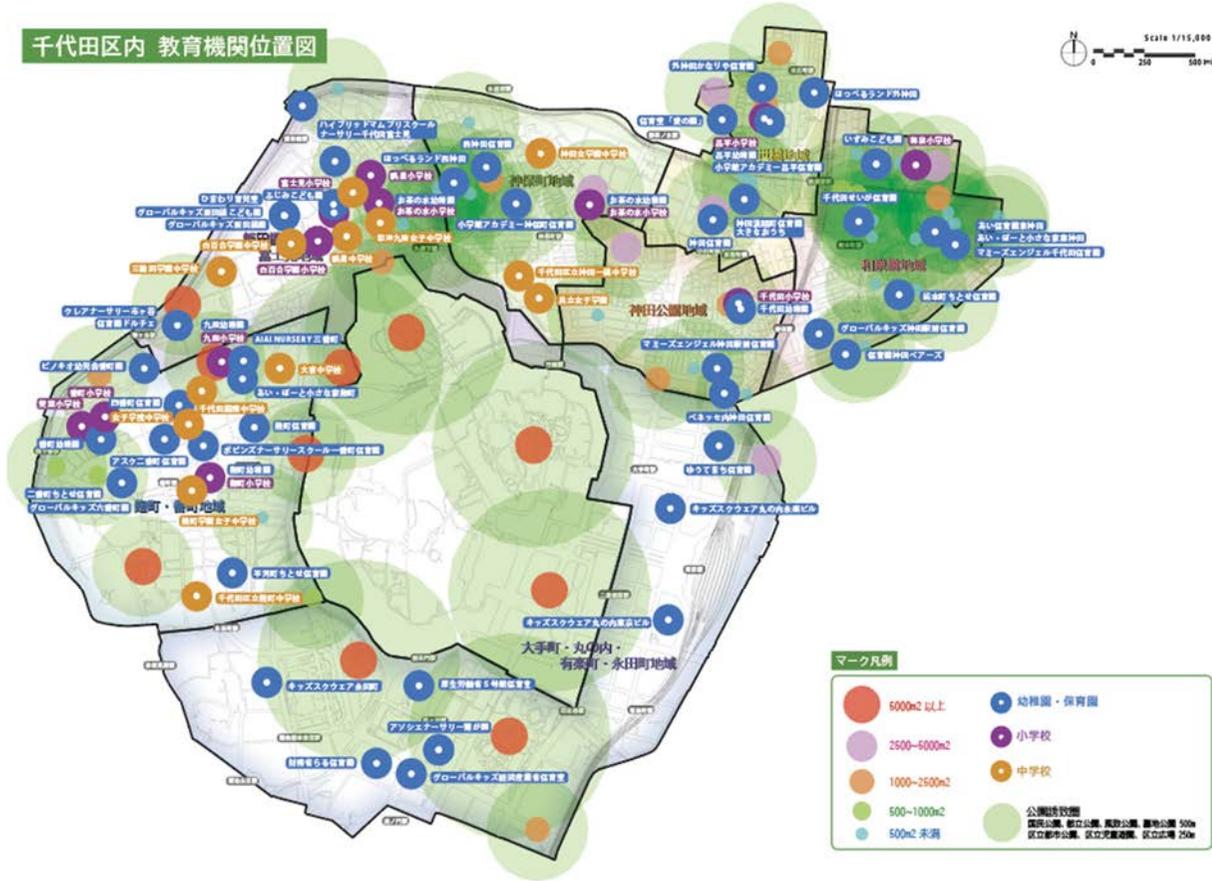


図 教育機関位置図

(3) -1 大人アンケート調査

1) 公園等の利用頻度

「全体」では「週に数回」(50.2%)となっており、地域別では「番町・麴町地域」(54.7%)と最も高く、「大丸有・永田町地域」(33.9%)と最も低くなっています。

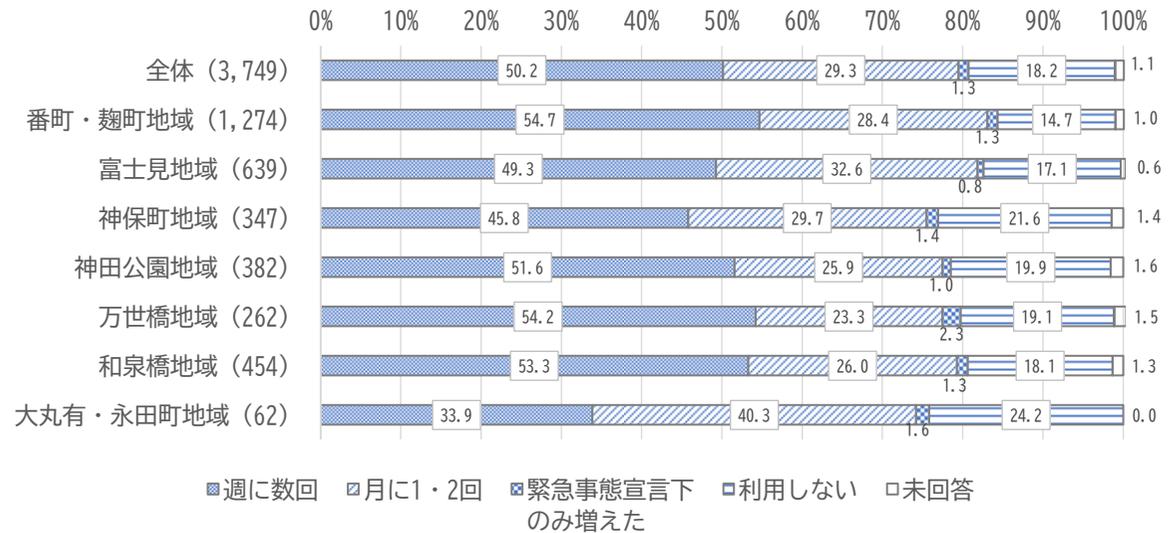


図 大人アンケート調査 公園等の利用頻度

2) 公園利用の目的

「子供と遊ぶため」(3,139人)が最も高く、続いて「散歩(ペットと散歩)」(740人)、「運動」(717人)となっています。

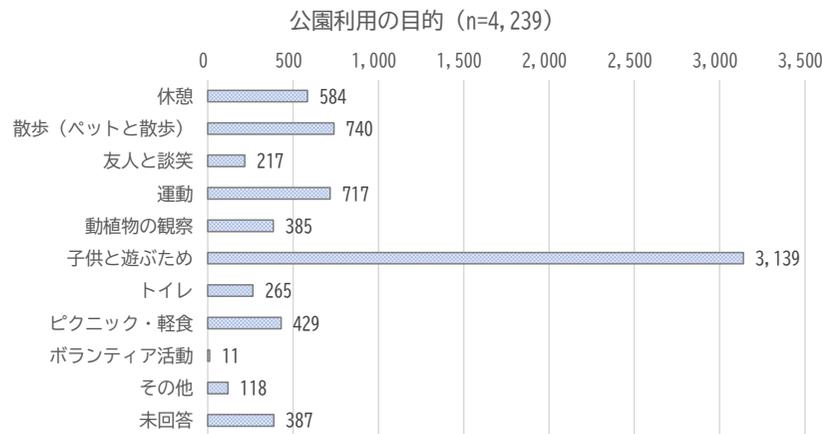


図 大人アンケート調査 公園利用の目的



図 大人アンケート調査 身近な公園に欲しいもの

(3) -2 子ども(小学生・中学生)アンケート調査

1) 公園等の利用頻度

「週に数回」が「低学年」(55.7%)、「高学年」(38.0%)と最も高く、「中学生」では「利用しない」(67.4%)と最も高くなっています。

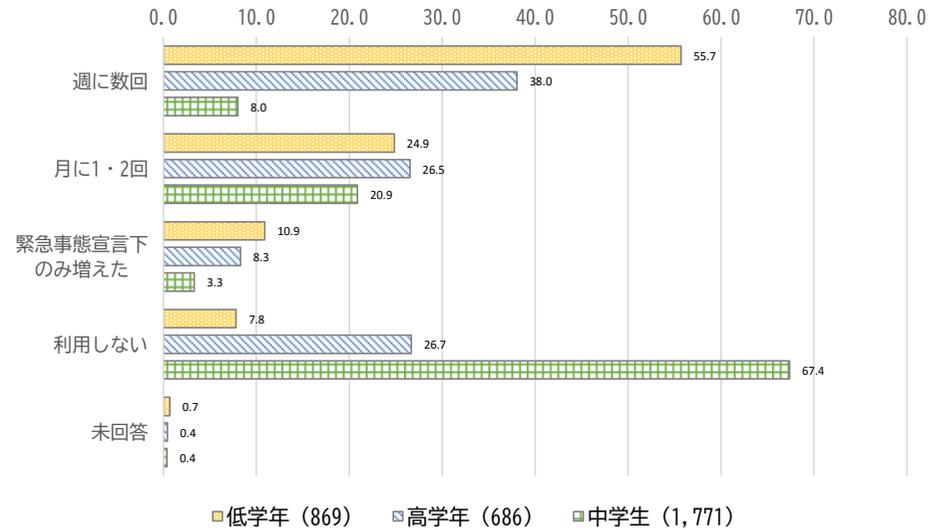


図 子どもアンケート調査 公園等の利用頻度(%)

2) 公園利用の目的

「遊び」が「低学年」(83.5%)、「高学年」(61.2%)と最も高く、「中学生」では「運動」(11.0%)、「友人との談笑」(10.7%)と高くなっています。

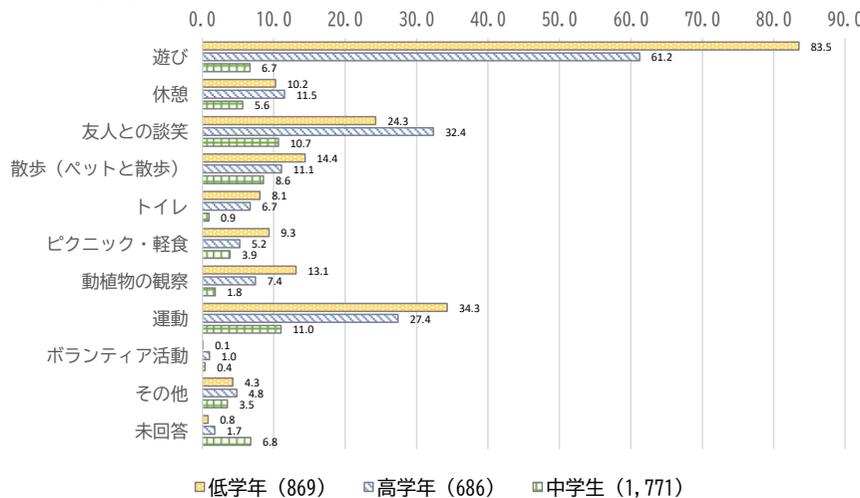


図 子どもアンケート調査 公園利用の目的(%)

・身近な公園に欲しいもの(問10)

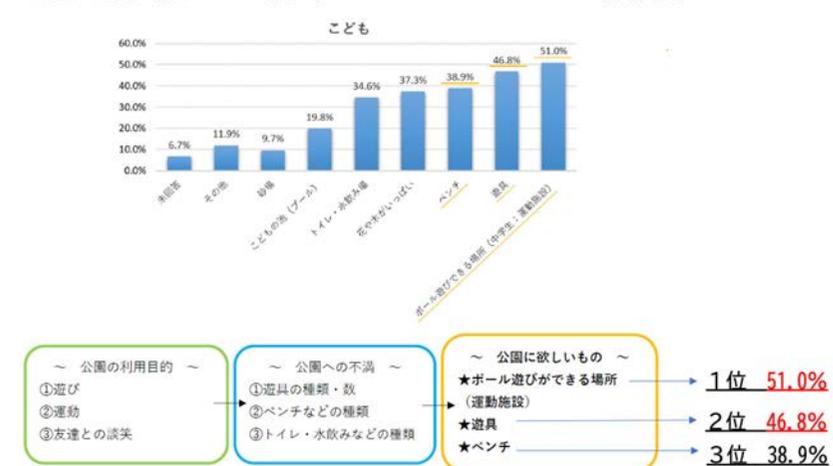
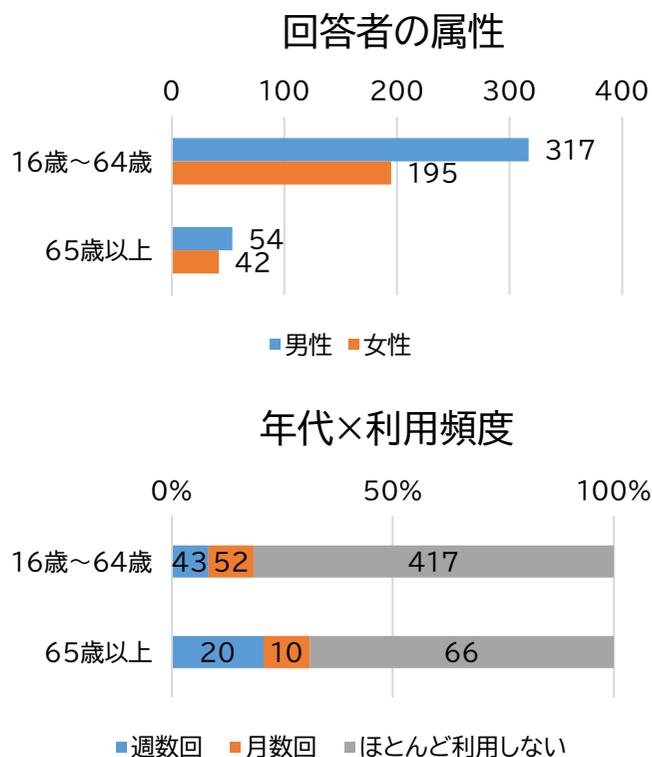


図 子どもアンケート調査 身近な公園に欲しいもの

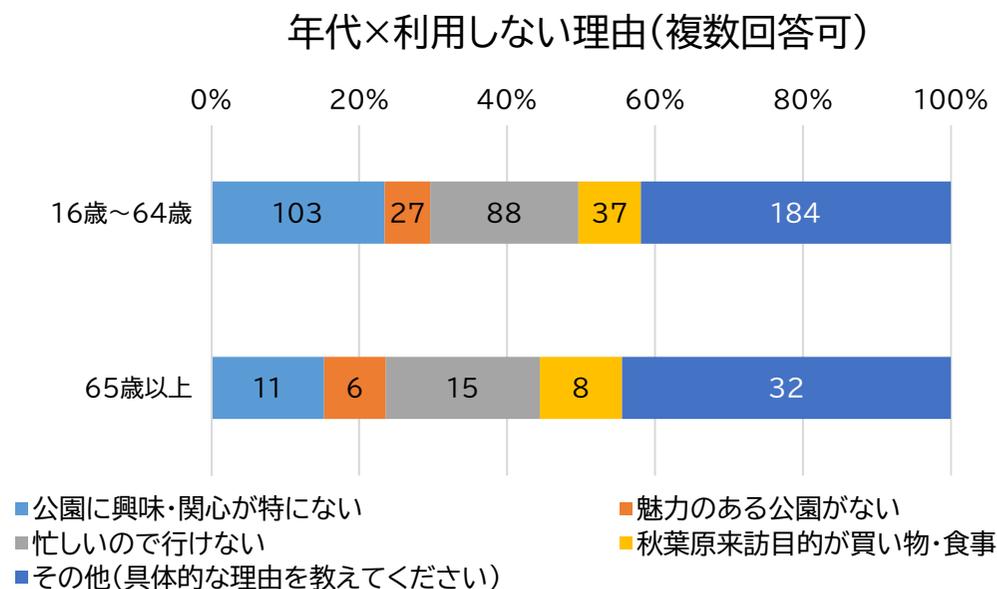
(4) 街頭インタビュー調査

男性の16歳～64歳が回答者の半数を占め、次いで女性の同年代という結果となった。

また、利用頻度はどの年代も半数以上が「ほとんど利用しない」と回答し、調査目的に沿った回答者を得られている。



公園を利用しない理由は年代を問わず「その他」が多く、次いで「公園に興味・関心が特にならない」、「忙しいので行けない」という結果となった。また、その他の回答として公園に行く理由や用事がないことや、公園の代替場所があるなどの意見が挙げられた。

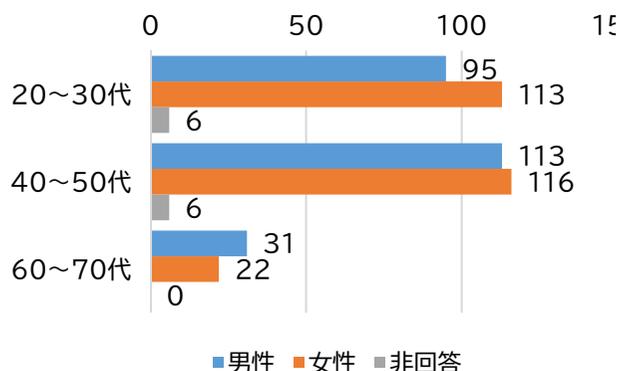


(5) Web アンケート調査

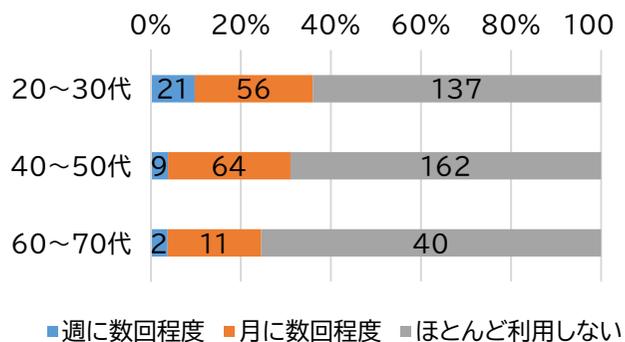
回答者の多くは20～50代であり、男女比は同程度である。

利用頻度は年代を問わず「ほとんど利用しない」が多い結果となり、調査目的に沿ったサンプルが得られた。

回答者の属性

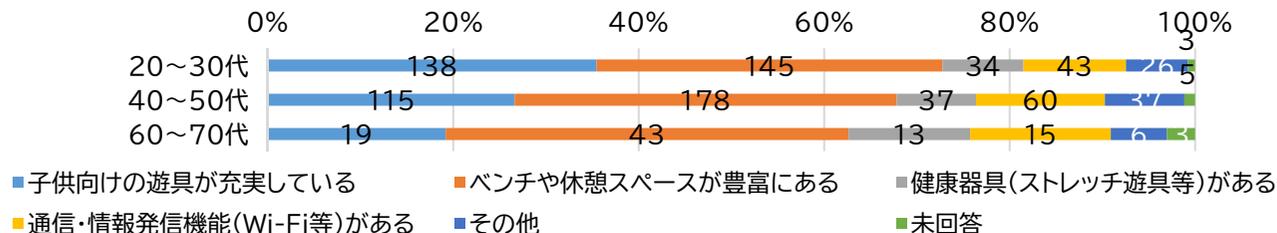


年代×利用頻度

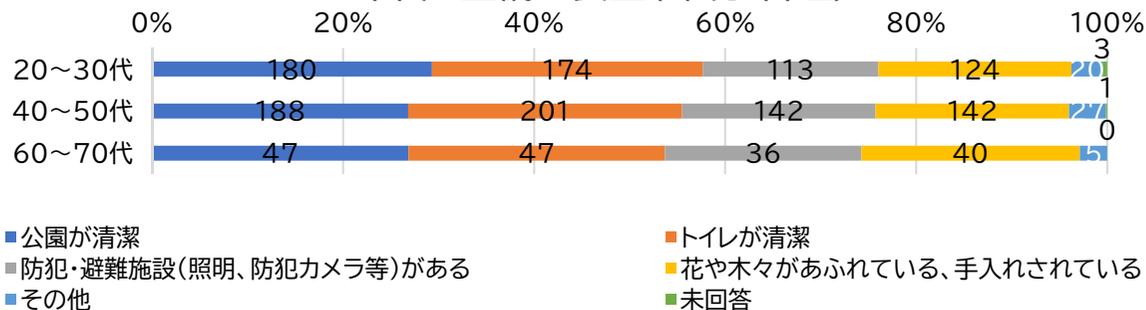


整備の要望については、年代を問わず「公園が清潔」や「トイレが清潔」など公園の清潔感を求める声が多い。また、年代が下がるにつれて「子供向けの遊具が充実している」や「ボール遊びや水遊びができる」などの子どもの遊びに関わる要望や「ピクニックエリアやドッグランがある」の要望が多い傾向が見られる一方で、「健康器具がある」や「活動やイベント」などの要望は年齢が上がるにつれ多くなっている。

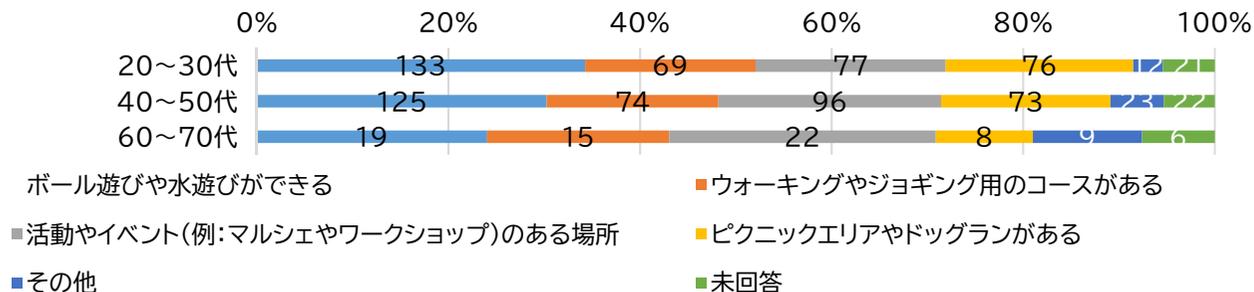
年代×整備の要望(施設)



年代×整備の要望(環境・管理)



年代×整備の要望(アクティビティ)



6. 全般的な課題と地域毎の課題

これまでに述べた内容を踏まえ、全般的な課題と地域毎の課題について整理します。

(1) 全般的な特性と課題

千代田区の特徴

- ①人口：23区の中で最も人口が少ない一方で、昼間人口は116万9千人にのぼり、昼夜間人口比率（1753.7）は最も高い。
- ②自然環境：武蔵野台地の東端に構えた江戸城を中心に、日比谷入江の埋立てや外濠整備が進められ、大名・旗本屋敷・町地などが発展して完成した江戸城の総構が、現在の千代田区のまちの骨格である。緑被地は約270ha、緑被率は23.22%となっており、皇居を中心とした区内最大の緑地が中央に位置している。その他外濠、靖国神社、国会議事堂前庭等にまとまった緑が分布。西側の麴町・番町地域や飯田橋・富士見地域では緑が点在しているが、東側は緑被率が低く、いずれの地域も10%未満。
- ③土地利用：区内の土地利用は、中心部にある広大な面積を占める皇居、永田町及び霞が関には官公庁施設などの公共用地、日比谷～大手町にかけては、街区の大きな商業用地である。麴町・番町地域、飯田橋・富士見地域においては、住宅用地が多く見られる。
- ④千代田区の魅力・価値：首都東京の風格・文化と創造性・活力が調和している。利便性が高く、豊かな都心環境に恵まれている。環境、災害対応面等で先駆的なチャレンジが展開されている。都心千代田ならではの多様性のある界隈が息づいている。

千代田区の特徴からみる課題

- ★人口増加、特にファミリー世帯の増加、高齢化への対応
- ★区民 × 都心に集まる人等のコミュニティ力の醸成
- ★緑や水辺の質の高い空間の創出
- ★都心生活の魅力・価値を一層高める空間の維持管理と活用
- ★歴史や文化の継承、未来へつなぐ活用
- ★都心に集う誰もが利活用できるユニバーサルデザイン

全般的な課題

- ・ 公園の整備/拡大
- ・ 自然環境の保全
- ・ 避難場所の拡充
- ・ 維持管理

公園の特性と課題は大きく4つ挙げられます。それぞれ現況分析やアンケート調査等の調査分析により得られた視点です。

千代田区の公園の特性

- ◆「公園」は22箇所整備され、9箇所が2,500㎡以上である。「児童遊園」は22箇所整備され、五番町児童遊園を除いて500㎡未満である。「広場」は14箇所整備され、内幸町広場と小川広場を除いて500㎡前後である。→千代田区内の公園は一部を除いて面積が小さい。
- ◆休憩施設はベンチ・スツール等の整備が進み8割近い公園に整備されている。500㎡未満の公園では整備割合が低い。
- ◆遊戯施設・運動施設の整備率は3割程度。また、運動施設は整備面積が大きいため2,500㎡未満の公園では整備が進んでいない。
- ◆便益施設は大きい公園を中心に整備が進んでいるが、整備率は5割弱に達していない。防災施設は一部公園で整備されている。
- ◆区民一人当たりの公園敷地面積は人口増加に伴い減少傾向にあり、令和4年時点では4.19㎡/人である。



千代田区の公園の特性からみる課題

1) 小規模公園が多い

区立公園の約半数(32/58)は、500㎡未満の小さな公園となっており、街区公園の基準面積である2,500㎡を大きく下回る公園が数多く存在する。1つの公園で多くの機能を有することが難しい状況である。

2) 利用されていない公園がある

平日・休日の計2日間で、利用者数が10人未満など、利用されていない公園等が点在している。

3) 画一的な整備・遊具が乏しい

現状の区立公園のほとんどが、植栽、休憩施設、各箇所に遊具が配置された画一的な整備となっている。すべり台・砂場・ブランコ・スプリング遊具がほとんどで、子どもの遊びのバリエーションが少ない。

4) ニーズを満たせていない

アンケート調査やヒアリング調査では、公園の利用頻度が多い大人は、「子どもと遊ぶため」の利用傾向が高いことや、小学生等こどもからは遊具や運動施設の整備ニーズが高いことが分かった。現状としては、遊具の種類が少なく、ボール遊びができない状況から、公園等への不満が高い。

(2) 地域毎の特性と課題

これまでに整理した地域特性や公園の現状、利用者ニーズを地域毎に分析し、地域毎の課題を以下に示します。

麴町・番町地域

～地域特性～

- ①人口：人口密度が高い
- ②自然環境：東西が内濠・外濠に接する。台地に浅い谷が数本入り込んでおり、坂道の上下り下りが繰り返される地形となっている
- ③土地利用：町人地から発展し、幕末は山の手最大の商業地であった麴町地域は、現在麴町大通りに沿ってオフィスが建ち並ぶ。番町は旗本屋敷が街並みのルーツであり、広い敷地を利用したマンション、オフィス街が広がる。紀尾井町には大学、ホテル等の大規模施設が立地する。
- ④地域の魅力：外濠や東郷元帥記念公園等の豊かな自然と清水谷公園等の起伏に富んだ地形、千鳥ヶ淵緑道のさくら並木などの四季の変化を感じさせる緑や水辺の環境がある。また落ち着いた住環境と共に、小中学校や大学キャンパス等の教育機関も充実している。
- ⑤公園整備状況：公園の平均面積は広い。東郷元帥記念公園がリニューアル中。また、外濠公園内の総合グラウンドがリニューアルオープンした。



～ 麴町・番町地域 区民の声～

(こども)

- ・遊具が少ないし、ふれあえる木々や岩や丘もなく、みんなで考えて遊んだりかくれんぼをしたり、楽しく過ごせません。
- ・なにも遊具がない公園が多すぎるし公園に対する不満が沢山ある。

(大人)

- ・東郷公園の改修工事期間が長すぎると思います。遊具や砂場で遊びたかった歳に使えず、今は広場のみ・・・。
- ・番町の森の公園が近くに出来て助かっています。

～地域特性から分析した課題～

- ★区内で最も多くの人々が住み、高齢化が進む一方で、ファミリー層や子どもも同時に増加
- ★身近な緑・空地の不足

～公園の現況調査から分析した主な課題～

- ★ニーズを満たせていない (ex. ボール遊び)
- ★画一的な整備・遊具が乏しい

飯田橋・富士見地域

～地域特性～

- ①人口：人口密度が高い
- ②自然環境：北西では外濠、東は日本橋川、南は内濠が本地域を囲む。地域の西側が台地、東側が低地であり、その境界部を南北崖線が貫いている
- ③土地利用：旗本屋敷を主とした武家地が、明治以降、政治家の屋敷街や軍用地等となり、その後学校や病院に転換、現在は落ち着いた住宅地が広がる。飯田橋駅周辺では、近年の土地区画整理事業、市街地再開発事業により多様な機能が集積。九段下駅周辺は、千代田区役所等、区政の中核機能が集積している。
- ④地域の魅力：エリアの大半が文教地区に指定され、落ち着いた環境が維持されている。外濠公園の眺望や桜並木、北の丸公園、靖国神社など、大規模な緑の眺望や、安らぎある環境を身近に感じることができる。
- ⑤公園整備状況：外濠公園（逓信病院前）で新たに遊び場機能を拡充した。九段坂公園・組橋児童遊園がリニューアルオープンした。

～地域特性から分析した課題～

- ★市街地再開発事業による住宅供給などにより、定住人口の増加
- ★飯田橋駅、市ヶ谷駅、九段下駅における駅周辺整備の機運の高まり

～公園の現況調査から分析した主な課題～

- ★ニーズを満たせていない（ex. 公園数や広さの不足）
- ★小規模の限られた公園が多い



～ 飯田橋・富士見地域 区民の声～

（こども）

- ・公園のトイレはこわくて使いにくい。
- ・ボールや花火が出来る公園がないから作って欲しい

（おとな）

- ・子供の就学前はよく公園に遊びに行きましたが、学年が上がるにつれて利用頻度が少なくなって来ました。
- ・公園に遊具があるのは大事だと思います！！